

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>基本理念(生活の継続性や主体性自己決定を尊重して家庭的な雰囲気の中で本人、家族が安心できるホームを構築する)が基本方針と共にホール及び事務所に掲げてある。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>朝礼、月1回の職員会議において、理念を念頭に日々の介護に取り組んでいるのか議題に上げている。ケアプランでも理念を中心に作成している。</p>	<p>全職員が理念を頭において日々のケアにあたるように努力していく。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居時に説明をしている。他に利用者が理念に添った生活が営めているか年に数回ホームの広報誌を発行し事業所の取り組みを家族、地域、行政などへ紹介している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>同じ地域から入所している利用者には民生委員や近所の方が来所され親しくされている。近くにあるペットショップにも快く受け入れてもらっているが、地域の交流はもっとしていく必要があると思う。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区の清掃活動にも声を掛けられ、一緒に活動した。空き瓶回収などにも頑張っており協力している。</p>	<p>○ 尚、一層の交流に努めたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	所長は島根県認知症介護の指導者研修を終え、指導者として各地に出向き研修を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニットごとホーム職員全員で行い、第三者評価の問題点を各ユニットでミーティングを開き統一した介護や改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、民生委員、家族、行政の方も交え運営推進会議を開き、虐待、権利擁護事業、看取りなど毎回積極的な話し合いがされている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会や県や市の研修の講師として連携を図っている。	○	他事業所の地域での活動を参考にしサービスの質の向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当事業所では成年後見活動を行っている職員もいる。制度を利用している利用者の方、又これから必要に迫られている利用者の方がおられ、積極的に支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内でも成年後見制度のビデオでの勉強会をもった。積極的な研修への参加をし、一人一人の認識を強めほんの少しでも見逃すことがないようにしている。あんしん支援センターと常に連絡を取り合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>職員が契約時に説明をし理解を得ている。その他疑問あれば都度説明して理解、納得を得ている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>苦情処理の担当がおり窓口には意見用のノートを設置している。今までの苦情処理の対応をまとめた記録は保存してある。</p>	○	広報などで外部者に表せる機会は増やす必要がある。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>請求書発送時に利用者の担当職員が1ヶ月の様子を手紙にしたためており金銭管理もきちんと報告できている。緊急な状態にある時はすぐに電話連絡している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>家族の苦情は苦情処理担当職員が受け付け、職員全体の反省をうながし業務改善を行っている。運営推進会議やグループホームで開催する長寿を祝う会においても機会を設けている。</p>	○	広報誌などで今後外部へ表せる機会を作っていく。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>入居受け入れ、入居継続についてもケース会議等にはかり職員の意見を聞いている。毎月職員会議を開催して意見、提案をくみあげている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>管理者は状況に応じた対応ができるようシフトに入っていない。職員は協力しあい補うようにしている。</p>	○	現在職員数は足りているので補いあいながらケアの低下がないよう工夫していく。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>管理者は異動を最小限にしているが離職が続き、2ユニットで協力しあっている状況である。体力、精神力と共に職員の意識向上が求められている。</p>	○	職員のより一層の意識向上をめざす。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は認知症介護指導者研修を受講し認知症ケアの質の向上にとりくんでいる。職員を島根県介護研修センターにおける実践者研修、リーダー研修やその他の研修に積極的に参加させている。職員会議の時に内部研修を行い質的向上を図っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲グループホーム連絡協議会も発足し交流会、勉強会と積極的に参加し活動しているところである。研修を通じて知り合った同業者等の交流も行っている。(他施設行事への参加、交流)	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士の親睦会を開催したり希望の休みを取りやすくし、ストレスが緩和されるように、努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格習得に向けた支援も充実しており研修への参加も頻繁にあるので向上心に繋がっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談は必ず家族、本人共に行いグループホーム内を見学してもらい納得しての入所になるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談には時間をかけ、よく話を聴くようにしている。	○ グループホームのめざしている方向(出来ること、出来ないことを含め)お話し、利用される方のために一緒に協力し合っていけるように話し合っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	機会をたくさん持つためにいろいろなサービス事業所を見学され、ケアマネさんともよく相談をしてみず申込みは複数されるよう話をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらい面談など行い、ここで他の皆さんと共に生活ができそうか利用者の方の気持ちを大事にしながら利用へ移ってもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方のそれぞれの得意な面で力を発揮して頂きながら教わる事も多い。共に感謝の声掛けが行われている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場を十分に理解した上で本人がどのようなニーズを持ち、日々の生活を送っているかを共に考え日々の生活を支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の家族への想いをできるだけ伝え、面会や外出等が減ることによってストレスを感じなくてもすむように心掛けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会していただけるようにしている。本人が行きたい所へは職員が付き添って行くようにしている。なじみの理髪店を望まれる方は外出を楽しみながら、利用しておられるし、(当グループホーム併設の美容院を利用される方もある。)買物時、馴染みの店に寄られる方もおられる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士の関係を保ったり、関係が今1つの利用者には職員が調整役に徹し努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても相談等があればいつでも相談に応じている。特養に移られた方については退所後、他の利用者の方とともに様子伺いに訪問したりした。又別の施設にいかれた方のその後について職員から色々情報をいただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの持つ性格や生活歴に対応した処遇に努め安定した生活が送れるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所希望を受け職員が面接に訪れ本人や家族からどのような生活がしたいのかをきいている。ケアプラン作成時には改めてセンター方式などを利用し考察、把握に向けて取り組んでいる。	○	続けてセンター方式をこまめに記入し共有する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	グループホームの中で食事を作ったり、洗濯物たたみをするなど日常生活を一緒におくる中で家庭では出来なかった事が入所してからできるようになるなど可能なことがたくさんあった。センター方式もちい、本人の出来る事、良い所に眼を向け全体を把握するよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく毎日暮らせるように、本人、家族から要望をだしていただき職員全体で介護計画について話し合い作成している。乱暴な行動が見られた方など話し合い、同じケアで寄り添うようにこころがけ、以前より表情が和らいだ事例などある。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化に応じ、会議を開き家族、本人の要望や医師、看護婦の助言も参考にしながら計画を見直している。年ごとに低下していられる中で、家族はもう介護用品をといわれる中で布パンツで対応するなどよりよいケアをめざした計画になるようつとめて協力しあっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	I日の業務日誌、特記事項の記録、バイタルや服薬の記録、通院記録、個別のケース記録などで情報を共有し介護実践や計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし入院の回避、医療処理を受けながら生活の継続を支援している。看取りなどグループホームでできる方については出来るだけ支援してきた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	連絡会議には民生委員が参加される。消防署では職員全員が救命講習を受講。避難訓練にも来ていただき、消火器使用の指導を受けた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の方で当事業所のみで対応が難しい場合、他のケアマネジャーと連携を図りその方にあったサービスを提供できるように取り組んでいる。ベッドやオムツ類などは本人、家族の立場で親身に対応してくれる事業所と連携を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは権利擁護事業を必要としている利用者の方や虐待のおそれのある方などについて積極的に連絡を取り合っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族へは入所時、当事業所のかかりつけ医を説明し受診の際の利用者の付き添いはすべて職員が行っている。	○	グループホームで受診支援をした結果、家族が任せきりになったり、状況把握が不足する事例がでている。手紙等できちんと現状を伝え、協力関係を持っていく必要がある。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者ができるだけ安心して診療を受ける事ができるように定期的な受診を支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は3名いる。常にいるように配置しているが不在時でも対応できるように介護職員はきちんと記録に残し、利用者の健康管理や状況の変化が生じた場合に即対応できるように努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された時、それにより認知症が進むことも病院関係者と相談し病状回復後は出来るだけ早く退院できるように努めている。又、可能な限り見舞い、利用者との信頼を強めるよう努力している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについてはすでに数名経験している。担当医との連絡は取れている。	○	家族の方が任せきりにならないよう、協力する関係を築いていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期のケアはめざすところでもありかかりつけ医も協力的である。家族にはグループホームでの出来る事、出来ない事はしっかり説明し理解してもらった上で医師の協力を得て連絡をとりあって終末期ケアに取り組んでいる。	○	より穏やかに終末を迎えられるよう研修を重ね家族の協力のもと、良いケアを提供できるように努めたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までに自宅をはじめグループホームからグループホームに移られた方、ユニット替えされた方、特養やケアハウスに移られた方などおられるがいずれの場合もご家族の方等と相談し慣れ親しんだ机、カーペット、タンスなどと一緒の持ち運ばれた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	いつのまにか疑問を忘れ、職員本位のケアに流れている。常に初心を忘れず向上していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1人で排泄できる能力を見極め、職員の声掛けで少しでもおむつ使用を少なくするよう努めている。実際にオムツ外しが出来た方もいる。オムツに依存心が強かった利用者も見守りの上ではあるが自立できた方もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の利用者の体調に合わせ、希望をかなえてあげている。入浴を嫌う方には少し強引にでも勧めるが、入浴後、「気持ちよかった。」の言葉が聴けるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人のペースを崩さぬように心掛けている。日中は体調をみて無理のない限り心地よい疲労感を味わい、夜安眠できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中での仕事(洗濯物干し、調理、掃除、洗濯物たたみ)など、利用者のできる力を引き出し、自分にもできるという達成感を味わってもらうよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ、ご自分で持っておられる方、預かり金の中から相応のお金を出し、見守りの中買い物を楽しんでもらっている方、レジでの支払いをされる方など満足を味わってもらえるよう工夫している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買い出しには必ず利用者の方に同行してもらっている。利用者の方の衣類も本人と担当とで買物している。その他、ドライブや喫茶外出をしストレスをためないよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご夫婦で利用されている方には共通の趣味である絵画を楽しむ為に、画材店に行ったり、ご夫婦で共に外出、外泊されるよう、家族の方達との連絡を密に行っている。家族が介護用のレンタカーを借りて観光に出られた事もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の面会が遠のき、利用者の方が不安になっておられる時など想いに添って電話をかけたりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会していただける体制は整っている。面会は利用者の居室、応接室、和室が使用されており、お茶のサービスもし、和やかな時間を過ごしていただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受け、職員でどういった行為が拘束にあたるか共有しあっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているがそれ以外は居室や玄関に鍵をかける事はしない。玄関も常に開放されており、利用者が自由に屋外へ出ることができる。鍵をかける事で利用者への悪影響を理解しており、又、屋外に出られる時も一緒にでたり、見守ったりと状況に応じた接し方をしている。玄関にチャイムを付けたり、鍵をかけたりする必要性を全く感じていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホームの前の道路はかなり交通量が多いので庭や散歩にでられる利用者の方にはさりげなく同行し所在には気を配っている。又ホーム内におられる方で転倒の危険がある方などには所在確認に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険行為に及ぶ利用者については家族の同意を得て刃物類は預かっている。又、それを使用する時は職員の見守りの上で行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の健康状況を把握し、服薬も利用者本人と記名が同じか確かめ、食事中は必ず職員がいるようにして誤嚥のないよう注意を払っている。ホームの外へ出られる方はホワイトボードに記入したり、職員間で情報共有に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署が行う救命講習を受講し初期対応の訓練を行っている。毎月1度は避難訓練も計画している。	○	新しく入った職員もいるので定期的に講習を受講したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1度は避難訓練を計画し、集合場所も複数設定したりしている。消防署からも参加していただくことがある。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	過剰な安全策をとらず(たとえば施錠、安易な車椅子、ポータブル使用など)ケアを行い、そのためにおこるリスクについても家族にお話して同意を得てケアに取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応	主治医の要望に基づきバイタルチェックをしている方や体重測定も定期的に行進するなど、日常行動の変化のある時は早めの対応に心掛け、受診をしてもらうなどしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関から配布される服薬の一覧をファイルに収め、効能、副作用など職員間で共有できるようになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝の牛乳は欠かさず飲んでもらっている。以前は下剤に頼っている利用者も多かったが、運動不足により便秘をとまなう事も伝え、運動にも力をいれている。献立には野菜を多く取り入れ、水分補給にも気を配り、便秘の解消に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアがあらゆる病気の予防に繋がることを利用者にも理解してもらい、毎食後、歯ブラシを使い歯をみがいてもらっている。できない処は職員が補助し義歯も洗浄している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算をし、味気ない物にならないよう工夫している。健康上、配慮の必要な方にはその方に応じた対応をしている。脱水予防の為、食堂にはいつでもお茶が用意しており、入浴の前後も水分補給を忘れずおこなっている。必要時には業務日誌に摂取量を記録し、職員全体で、把握、共有している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは毎年利用者、職員共に摂取する。他の感染症についても、汚物処理時のマニュアルを貼り、職員間で共有し徹底している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使用するよう心掛けている。調理器具は食事の片付けの時消毒を行っている。手洗いの励行、利用者も手伝う前には必ず、手指を洗ってから行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には花壇やベンチがあり皆さんに喜んでもらっている。ロビーには椅子が置いてある。利用者の方が描かれた絵や花も置かれてあり、楽しみに来られる方もいる。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員や家族の協力の下、食堂には常に季節の花が飾られ、七夕、クリスマスなどの行事の飾り付けも行われている。職員は静かに行動するように努め、テレビの音量は小さくするようにしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	諸所に休息できるような空間(ベンチ、椅子、炬燵など)をつくっている。プライバシーを重んじ居室訪問時はノックし返事をきいて入室するようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼット、洗面台が備えてあるが、使い慣れた、たんす、小物入れ、ベッド、テレビ、カーテンなど好みを取り入れた物を使っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気につとめるようにしている。温度調節も外気温と5℃前後になるようにしてそれ以上は衣服で調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差がなく、車椅子が可能である。車椅子可能な広さをもったトイレも用意されている。廊下には手すりがとりつけてある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの方の個性や得意分野を活かした活動、お手伝いをしてもらい、迷いや混乱はそれとなくフォローしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関やベランダには長椅子やテーブルが置かれ、外観を楽しんだり、時には気の合う人とお茶を飲んだりしておられる。花壇や畑もあり利用者の生甲斐作りに役立っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日の食事でも出来上がったものをそのまま提供をするのではなく、食材の買い出しから調理の準備、盛り付けなど職員と一緒に利用者と日々行っている。当事業所には美容院があり運営者が利用者の希望に合わせてカットをしている。管理者は認知症介護指導者養成研修を修了しており、県や市の研修で講習をしたり実習の受け入れをするなど認知症ケアの実践、普及に向けて地域への発信を行っている。又、出雲市のグループホームネットワークにおいても役を持ち事業所間の連携にも取り組んでいる。権利擁護にも力をいれ地域包括支援センター等と連携を取り積極的に取り組んでいる。成年後見人養成研修修了者もいる。本人家族の希望を聞き、協力医とも連携を密にし、安心して終末期のケア（看取り）にも取り組んでいる。定期的な病院受診の付き添いも全て職員が対応している為、医師からの指示も直接聞くことができるのでケアに役立っている。